

群馬県の放射能はどのように測定されているか

～第1回モニタリングポスト見学ツアー報告～

群馬県内には放射線測定モニタリングポストが25ヶ所あります。上毛新聞に毎日測定値が掲載されています。その数値を集約、分析している部会員の発案により、測定器と設置場所を自分の目で確かめる見学ツアーを高退教前橋支部と共同で企画しました。去る10月1日(木)に第1回目として、前橋、赤城山、利根、川場方面を巡りました。2～3年かけて全県の見学ツアーを企画する予定です。今回の参加者は6名で、高退教前橋支部の堀さんのレポートを掲載してツアーの様子をお届けいたします。(加納順子)

群馬県北部の線量

2015年10月1日

堀 泰雄



群馬県衛生環境研究所

まずは、群馬県衛生環境研究所で、職員が案内してくれた。ここには、地上の線量計(写真上)と、4階建ての建物の屋上にある線量計(写真下:1990年12月17日設置)の2つがある。屋上ものは、地上の放射能の影響を受けない、どこかの原発に事故があった時に放射能雲を

キャッチできるようにと、わざと高く設置してある。これらの線量計は、原子力規制庁に直接送信できるようになっている。職員の話では、普段の線量の3倍以上になると



きには、「異常」として対応すること。ここでの最高の線量は、福島事故のあとの、0.56 μ Svシーベルト(※以下線量の単位は省略)で、それは、2011年3月15日に放射性プルーム(plume 煙や塵の小さな雲)が通過した時だということ。ここまでの放射線量(除染の基準は0.23)は以下の通り。

集合場所の群馬県教育会館 0.10～0.11
群馬県衛生環境研究所(地上) 0.09～0.10
群馬県衛生環境研究所(屋上) 0.05

赤城山

前橋のすぐ北にそびえる山で、最高峰は1828 m の黒檜山。赤城山という名前の山はない。外輪山に囲まれた真ん中の大沼がある。福島から飛来した放射性物質は、脊梁山脈にぶつかって、そこを汚染した。赤城山全体が汚染され、雨水などで汚染物質が沼に集積、外に流れる川はほとんどないので、放射能(放射性物質)は沼に沈殿、だから線量がなかなか下がらない。ここはワカサギ釣りで冬は賑わうが、放射能に汚染されて、釣りは許されるが、持ち帰りは許されなくなっていた。今年になって、放射線量も低下したので、持ち帰りも許可、と新聞には出ていた^②。榛名山の方は、ふもとに伊香保温泉、高崎寄りには榛名神社もあり、人でにぎわっているが、赤城山は客はほとんどなかった。

地蔵岳のふもとに小さなスキー場があり、その脇の駐車場に線量計があった(写真次頁上左)。線量は、0.048と、前橋より低かった。モニタ



一や線量計によって数値にはかなりのばらつきがあり、私の線量計(日本精密測器株式会社 RadcounterDC-100)では 0.10~0.11。脇の、小さな水路のようなところで測ってみると、数値はみるみる上がり、0.32~0.33 にまでなった。その後沼のほとりに行ったが、そこでの線量は、地上 10 センチのところ、0.10。

④「9月1日に解禁。セシウム濃度の基準値 100 ベクレル/kg のところ赤城大沼 47~63 ベクレル/kg、榛名湖 20~62 ベクレル/kg。」ネット産経ニュース 2015.8.29 より要約

南郷小学校

昼食のあと、赤城山の北面を下り、日影南郷という部落の、南郷小学校の跡地に行く。明治7年開校の古い小学校だが、平成15年に閉校した。校舎は鉄筋の立派な校舎で、避難所にでも使っているらしい。学校の裏側には、根利川が水音高く流れていた。「もったいないなあ」「少子化が進んでいるのだなあ」というのが皆の感想。北側の敷地に設置してあるモニタリングポスト(写真下)の線量は、0.10~0.11 というところ。



川場村

その後更に北上して川場村に行く。モニターは村の武道館の裏側にあった(写真右上)。線量



は 0.12 と少し高い。駐車場とこんにゃく畑の間のくぼみで測ると、線量は 0.3 を越えた。

その後道の駅に行く。こ

この道の駅は、広大な面積で、売店だけでなく、レストランが2つ、パン屋もある。池もありガチョウが泳いでいる。とても人気の道の駅で、同行の女性の話では、日曜日には、駐車場所も探すのが苦労なほど人が来ているという。この女性は、震災後1年という頃ここにきて線量を測ったが、線量は0.5を超えていたという。しかし人々は気にもしない(あるいは無知で)、子どもを芝生の上で遊ばせたりしていたという。おおっぴらに線量計を出すのがはばかれて、ポケットからちょっと出しては見ていて、その線量だから、芝生ではかなりだったろうという。0.5 といえ、基準の2倍以上で、除染の対象だ。女性は、ここのリンゴやキノコは買いたくない、という。私は、武道場の裏のリンゴ畑で、落ちていたのを平気で齧ってしまったが、放射能に関心の深い人の気持ちは、こうなのだ。事故直後に線量を知らせなかったのは風評被害を恐れてのことだろうが、どうも納得はできない。

* * * * *

群馬の北部の線量はかなり高いのだろうと予想していたが、人々が暮らしているところではそれほどでなかったのはうれしかった。群馬では、「ぐんま」の名前で購買者が拒否反応を示すことはないが、それでも詳しく調べれば、基準を超える汚染地帯はかなりあるのではないだろうか。調べなければ良いのか、知らなければ良いのか、人々の生活の問題とも関係して、難しく悩ましい問題である。

第2回モニタリングポスト見学ツアー

3月30日(水)渋川・吾妻地区+吾妻木質バイオマス発電所見学予定